

クリーニングの@がSUN SUN
川崎美紀の
SMILE通信
きょうも
おもてなし
目録



Vol.23 窓ガラスが映し出すもの

空間でした。
私のほかには誰もいません。中庭を横切りながら、知らないところへ迷い込んだ「アリス」のよう、振り返ったらすべてが消えてしまうかも……なんて考えると、ゾクツとしました。そんなことはないとわかっていても、振り返るのは少し怖かったです。空を見上げてみました。
高くそびえるビルの、ガラス張りの壁面に夕日と雲が映り込み、乱反射していました。美しい、トワイライトゾーンはほんのわずかな時間でしたが、都会の真ん中でもらったご褒美でした。
これほどきれいに夕景を映すガラス窓は、定期的に清掃されているのでしょうか。窓ガラスの清掃は、いまでもまだまだ人力が中心です。床清

新しい元号「令和」で新しい時代が始まりました。
予告され、そうなんだとわかってきた出来事ですが、それでもなんとなく気分が改められて、ずっと背筋の伸びるような気持ちで迎えています。先月までの「平成」には多くの思いがありますが、思い出として振り返るにはまだ、あまりにも身近すぎます。

高層ビル群の間で
思いがけない夕景に遭遇

古いビルから新しいビルへ建ち替わり、通りの名前は変わらなくても街並みが変わっていくのを目の当た

りにする昨今です。特に東京の都心部は、日々変わっています。
先日、仕事を終えて帰宅する際、早春の陽気に誘われたせいか、いつもの地下鉄へのエスカレーターを横目に、1階のドアから外へ歩き出しました。その日は土曜日だったこともあって、夕方の大手町を歩く人はまばらでした。
人の少ない静かな大手町も不思議な感じでしたが、そのビルを出て1本目の道を曲がると、予想外に広い空間が現れました。法定緑地なのだと思いますが、車道とは隔離されていて、ビルとビルの中の懐（ふところ）のような感じの中庭は不思議な

掃のロボットはいろいろと開発されてきているのに、窓はまだまだ。窓こそ安全面からもニーズは多いように思います。
あるいは、汚れがつきにくいようなコーティングが施されているのかもしれませんが。人手不足を補う知恵は、今後ますます価値が増えていくでしょう。

特殊能力を要する
高所での作業

窓清掃といえば先日、駅のそばのコンビニの入口で、傘を差し出してくれる警備員さんと出会いました。
雨でもないのに不思議な光景だと思って見上げると、そのビルの上のほうで窓掃除が行われていました。まさにロープ1本でつられ、崖を登

るロッククライミングのようでした。
水や洗剤を大量に使っているわけではないのですが、傘は少なからず落ちてくる水分を心配しての配慮なのだとわかりました。駅前ですから、コンビニに入る人出る人はかなりの数です。休むことなくテキパキと傘を差し出して、わずかな落下水分から利用者を守ってくれていました。
そういえば以前、窓清掃の人は山登りをしている人が多いと聞いたことがあります。窓に限らず、装飾やオブジェの清掃、点検など、高所での作業は、特殊能力が求められる場合があります。
不安定な足場や不規則な風の影響、平衡感覚、高所への適応など、慣れない場所で慣れない人が行うに

はあまりにもリスクが高い、だからそういう場所に馴染みがある人に技術を身につけてもらったほうが手取り早いかもしれません。
私自身は高所恐怖症ですので、高いところは苦手です。高いところでは上半身と下半身が分かれてしまうような、ジェットコースターで急降下するときと同じふわふわ感を感じます。これでは仕事にはなりません。
飛行機の中で働いていたので、高所恐怖症だとはにわかには信じてもらえません。飛行機の巡航高度は33,000フィート、約10,000メートル=10キロです。
地表がはるか下にある状況では、恐怖は感じません。歩く人や動く車などがはつきりと認識できる高さでもっとも恐ろしい高さです。離着陸時がそれに当たりますが、幸いにも乗務のときは仕事に集中していて高さを認識する暇がありませんでした。よき乗務員でした。

各国でさまざま
窓ガラスの汚れに対する意識

そして、窓ガラスの汚れに対しての意識は国によってかなり違います。
あくまでも私の感覚ですが、日本の生活は永らく障子や襖（ふすま）、磨りガラスに囲まれたものだったからか、窓を含め「仕切り」のとりえ方が独特のような気がします。仕切りは目隠しの意味合いが強くて、きれいにして向こう側がよく見えるよという発想は、持ち合わせていないように思います。

その対極の例として、オランダに住む知人から聞いた話によると、アムステルダムでは競うように、窓辺には色とりどりの花を飾り、窓ガラスは曇らないように毎日拭くのだそうです。窓が汚れていると、ご近所から苦情が来るとも。驚きです。
スイスも窓へのこだわりは強いようです。スイスの住宅は、家具付きで貸し出されるのが一般的です。ダイニングテーブルも食器棚もクローゼットもベッドも、部屋に、家に付属しています。身の回りのものだけにすぐに住めるメリットがある反面、その家具を使わなければならないデメリットもあります。いわば家具全般が借り物なので、窓周辺が唯一自己主張できる場所となるようです。ただし、休日に掃除してはいけないとも聞きました。
そうそう、ニューヨークのアパートでは、ときどき窓清掃のお知らせがあり、ゴンドラが降りてきていたことを思い出しました。窓の外側には手が届かないつくりでしたので、個々にはどうすることもできない環境でした。汚れを気にする人も少ないような忙しい街でしたので、「窓掃除があるんだ！」と新鮮な驚きがありました。
* * *
いよいよ令和元年のスタートです。最長10日もある今年GW、そのうち1日くらい、自宅の窓掃除をして過ごしてみたいかがですか。きれいになった窓ガラス越しに、新鮮な驚きがあるかもしれません。



イラスト★ささきさとみ
(<http://blog.goo.ne.jp/satomi343>)



川崎 美紀 (かわさき・みき) オフィスリバー研修講師 <http://www.officeriver.biz>
国際線キャビンアテンダントとして10年乗務、2005年JALアカデミーのインストラクターとなる。同時に個人事務所・オフィスリバーを立ち上げ、2012年独立。2015年日本キャリア開発協会認定キャリアディベロップメントアドバイザー(CDA)の資格を取得。主に企業を対象に、ニーズに応じた研修を提案し提供。近年はビルメンテナンス・警備・ホテル・金融機関など各業界での研修実績を持つ。ビルクリーニングカレッジでは「おもてなしマナー」トレーナー講習を担当。